

支部活動トピックス (4~6月)

第86回機器・部品メーカー懇談会で、住宅、ロボット、医療等の成長分野について、最新の情報を提供

平成27年関西支部定時総会

関西支部では6月3日(水)に平成27年度定時総会を開催しました。

最初に長榮周作支部長(パナソニック(株)会長)より挨拶がありました。「電子工業の国内生産は昨年末から4ヶ月連続で前年を上回りました。円安に支えられ、インバウンド需要も拡大しています。2020年の東京五輪のみならず、19年のラグビーW杯、21年の関西ワールドマスターズゲームズ等のチャンスを需要拡大に結び付けると共に、ICTを活用したインフラ整備(決済システム、自動翻訳、デジタルサイネージ等)を進め、日本のおもてなしに磨きをかけることが望まれます。関西支部では、本部と連携の下、ものづくりの伝統、研究機関の集積、アジアとのつながり等、関西の特性を活かし、ビッグデータを活用したCPSの推進に向けて取り組んで参ります。」



次に、JEITAの長尾尚人専務理事よりIT・エレクトロニクス産業の現状と課題につき報告しました。「5月29日のJEITA社員定時総会で、水嶋繁光会長、東原敏明筆頭副会長をはじめ27年度役員を選出しました。2014年の電子工業国内生産は4年ぶりに前年を上回り、特に電子部品・デバイスは7.8%増と好調に推移しました。JEITAでは、CPSの社会実装に向け、分野を横断するタスクフォースを設置し、内外の動向を把握すると共に、規制・制度面の調和、研究開発、標準化等につき提案して行きます。秋のCEATECでは、将来の社会の姿を見せ

る「Next Street」の展示も企画しており、「CPS=Challenge、Partnership、Speed」を合言葉に取り組みます。地方創生に向けても、農業、観光、ヘルスケア、安心安全等、各分野でITの活用が不可欠です。各地の先進事例を取りまとめで作成した「地域活性化百選」を、さらにブラッシュアップして行きます。様々な通商案件(WTO/ITA拡大、各国の自国優先的政策への対応等)や制度面の対応(パーソナルデータ利活用、職務発明制度、流通・取引慣行ガイドライン等)にも力を入れ、電子情報産業として社会の発展に貢献する活動を展開します。」

続いて、支部の大塚昭徳事務局長より支部の体制・活動につき報告しました。「27年度は支部長にパナソニック(株)・長榮会長、副支部長にシャープ(株)・水嶋会長、運営部会長にパナソニック(株)・宮部専務の体制で進めます。26年度の活動は「スピード&連携&多様性」をテーマに、①ビジネス・市場の創出・拡大(部品運営委員会の台湾ミッション、2回の機器・部品メーカー懇談会等)②競争力強化(技術セミナー、環境セミナー等で、地域産業界に最新情報を発信)③基盤強化(JEITA関西講座やものづくり教室等の人材育成活動、紛争鉱物規制やコンプライアンスをテーマとする講演会等)に重点的に取り組みました。27年度も、地域におけるビジネスの創出、アジアを中心にグローバルな市場拡大に向けた環境整備、人材育成やマイナンバー導入等、社会的課題の解決に向け、活動を進めて行きます。」

最後に関総一郎 近畿経済産業局長、松崎和義NHK大阪放送局副局長より祝辞を頂き、閉会しました。

第86回機器・部品メーカー懇談会

部品運営委員会は6月10日(水)に第86回機器・部品メーカー懇談会を開催しました。最初に吉田 茂雄委員長(ニチコン(株)社長)より挨拶がありました。「すべての家電・情報機器がインターネットで結ばれ、自動運転、インダストリー4.0、

CPS等、人工知能の領域にも踏み込んで、電子情報産業は大きな変化を迎えています。本日の懇談会は旬のテーマが並び、大変興味深く思います。」



続いて機器側より報告を行いました。「**カーインフォテイメント製品の動向と今後の展開**」富士通テン(株)：次世代情報システム(快適・便利)、運転支援(安心・安全)、パワーマネージメント(環境)の情報を、車載サーバーを介してクラウドでビッグデータ処理し、ドライバーに新たな価値を提供するコンセプト「Future Link」を提唱しています。2020年をめどに自動運転との連携もめざします。カーナビは12年以降、微減傾向ですが、底堅い需要があります。今後、国内市場の中心がシニア層に移ることから、地図情報の自動更新等、簡単な操作で様々なサービスが受けられる商品でユーザーニーズに応えていきます。「**住宅会社におけるスマートハウスの現状と新たなサービス創出の取り組み**」大和ハウス工業(株)：住宅メーカーからスマートハウスを見た場合、現状は「エネルギーの見える化」にとどまっており、付加価値のさらなる拡大が求められます。近年は、家単体から街全体の最適化に向かう「スマートコミュニティ」、高気密、高断熱等の機能で健康増進をめざす「スマートウエルネス」、企業の壁を越えるビッグデータの活用で価値を産む「大規模HEMS情報サービス」、スマートフォンを活用して機器を制御する「ホームオートメーション」がトレンドとなっています。サードパーティーや他業界との連携に向け、新たな発想によるアプリケーション・サービスの開発に向けたコンテスト等の取り組みを進めています。□

ロボット業界の動向と今後の展開」(株)安川電機：産業用ロボットの国内市場はリーマンショック後の落込みを克服し、着実に拡大しています。グローバルでは欧日米で多く稼働していますが、近年は中国はじめアジアの伸びが顕著です。今後はIoT/M2Mの浸透による分散制御と、クラウドによるビッグデータ解析により、故障予知、リモートティーチング、自律学習、オープンソフトの共用・再利用が進みます。軽量化、簡単操作、自律(単能工→多能工)、安全等の面で進化すれば、人とロボットが共存でき、医療、農業等、サービス分野への展開も視野に入ります。5月には「ロボット革命実現会議」が発足し、今後は国を挙げた取り組みが進められます。「**X線撮影診断の歴史と発展、将来ビジョンについて**」(株)島津製作所：X線発見の翌年に二代目島津源蔵がX線撮影に成功し、日本のX線発生・撮影装置開発をリードして来ました。現在では、デジタル技術の進歩により、リアルタイム診断、動画観察、3D等、各種の画像処理が可能となっています。装置の稼働率を上げる多用途化、被曝量を低減する低線量・高画質化等、臨床で求められる多様な付加価値を追及しています。今後は、粒子線治療装置はじめ治療用のシステムも手掛け、分子イメージングの技術開発でさらなる早期診断と低侵襲・根治治療をめざします。「医療」は成長戦略の重点分野に位置づけられ、確実な成長が見込まれます。最後に部品側を代表してパナソニック(株)より「**電子部品業界の動向**」につき報告しました。グローバル市場ではスマートフォンの成長が続きますが、タブレットは鈍化、PCは微減、いずれも日系メーカーの存在感低下が否めません。電子部品はやや鈍化傾向ながら拡大が続き、日系メーカーも一定のポジションを維持しています。IoTによりすべてが繋がるスマート化に向け、近い将来のパラダイムシフトが見込まれます。パナソニックAIS社では車載・産業分野の拡大に向け、デバイス単品から、モジュール・システムによるソリューション提案に注力し、持続的な成長をめざしています。

今回は、機器側発表4社中3社が初参加で、各成長分野についてお話しいただき、従来に増して有意義な会合となりました。